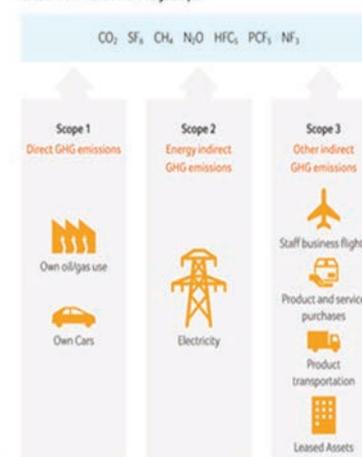


各社の考え方	
<p>□ 算定を行う背景・目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 1976年に台湾(本社)で設立された弊社エイサー(Acer Inc.)は、自社ブランドの製品を多国籍に展開するハイテク企業であり、主にPCや液晶ディスプレイ、サーバー、タブレット型コンピューター、スマートフォンの開発/設計/販売活動、および関連サービスの提供に携わっている。またエイサーでは、クラウドサービスのソリューションについても積極的に開発を進めている(Acer Cloud)。 ● 弊社としては、エイサーのカーボンに係るリスクと機会について全体像をとらえ、最も効率的なカーボン・マネジメントの手法を見つけ出して、われわれのバリューチェーン全体を通じて炭素削減プロジェクトを実施していきたいと望んでいる。
<p>□ 算定結果の活用方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 排出データに基づき、弊社では、「エイサーサプライヤーCSRスコアカード」の重要な観点の一つとして、サプライヤーに対し、適正な削減目標を設定して、それぞれの成果について評価を行うよう求めている。さらにまた、サプライヤーと協力しながら、われわれの製品・サービスにおいてもっとエネルギー効率の高いソリューションを見つけ出そうと取り組んでいる。
<p>□ 算定のメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● スコープ3排出量を算定することにより、われわれは、エイサーのカーボンに係るリスクと機会について全体像をとらえ、そして最も効率的なカーボン・マネジメントの手法を見つけ出して、バリューチェーン全体を通じて炭素削減プロジェクトを実施できるようになる、と考えている。
<p>□ 社内の算定体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● われわれは、サプライチェーンのメンバーと一体となって算定に取り組んでいる。サプライチェーンにおける炭素削減を達成するため、エイサーでは2009年以降、サプライヤーに対し、カーボン・データの提出を義務付けてきた。 ● エイサーでは、こうしたODMメーカーとのチーム全体にわたって、一次GHG排出データや詳細なエネルギー消費データを取りまとめている。 ● 弊社は、2012年に欧州/中東/アフリカおよび中国の物流業者から排出データの収集を開始し、製品輸送から生じる潜在的な影響について評価を行った。

Greenhouse Gas Inventory Scope



Scope 3	Emissions (tonn)	Note
Staff business flights	7,364.75	Emissions figure covers business flights by global staff and has been audited by an external agency using Taiwan staff flight figures primarily
Product and service purchases	103,760.32	Primarily notebook ODMs' allocation for Acer in 2012
Product transportation	48,406.09	Europe, Asia, Africa, Middle East, and China primarily
Leased assets	86,314.85	Primarily e-Enabling Data Center and rented facilities in North Sioux City, US

	各社の考え方
<p>□ サプライチェーン排出量の削減に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● すでに弊社では、航空輸送を使用した輸送量を全体として縮小し、海上輸送の割合を引き上げている。2013年には、ノート型パソコンの航空輸送について世界全体で前年比7パーセント減を達成し、海上／鉄道輸送を9パーセント増加させた。パートナーとの協力により、コンテナ輸送管理の調整を図ったことで、重慶にあるわれわれの製造拠点近くで空のコンテナを調達できるようになり、その結果、深圳－重慶間の1,800キロメートル超に及ぶ陸上輸送が省かれることになった。2013年には、その新たな調達先により重慶の生産拠点で直接取り扱う空のコンテナは前年よりもおよそ26パーセント増加し、その結果、輸送の時間とコストが削減されただけでなく、サプライチェーンのリードタイムが改善されて約3,724トンもの炭素排出量の回避にもつながった。
<p>□ サプライチェーン排出量算定の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● まず第一に、われわれが、サプライヤーと関わり合いながら、気候、そして炭素の排出がエイサーの事業にとって潜在的なリスクと機会になるかもしれないということ、それらの業者に認識してもらえるよう促す必要がある。 ● 二番目に、われわれは、一部の主要なステークホルダーに対し、それぞれが実際には何を期待しているのか、サプライヤーと直接コミュニケーションを図って伝えてもらえるよう促していきたい。エイサーでは、2008年～2013年にかけて5回にわたり、国際CSRフォーラムを開催した。 ● そしてわれわれは、サプライヤーの能力強化を図るべく技術的ツールや研修コースをいくつか提供していく。その最終段階で、各サプライヤーの炭素削減実績を、エイサーサプライヤーCSRスコアカードにおけるそれぞれの総合評点に反映させ、炭素削減を後押ししていきたい。
<p>□ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● エイサーでは、GHGプロトコルのような国際的な算定ガイドラインに従うこと、またCDPサプライチェーン・プログラムへの参加を推奨する。また、サプライチェーン排出量の算定に関して互いの経験を学んで共有するために、経験を積んだ企業から専門家を招いて情報交換をすることも有益であると考え。弊社は、2008年にCDPサプライチェーン・プログラムに参加し、そこでサプライヤーに対し、GHG排出量に関するCDP質問書に回答して気候変動への対応策を実施するよう働きかけると同時に、こうした情報をサプライチェーン・プログラムの他の参加者に対しても公開／開示してきた。このようなプラットフォームを通じて、参加企業は貴重な情報に触れることができ、さらに追加戦略の立案もサポートしてくれる場合がある。

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 業者から直接、排出量のデータを入手している。	
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 欧州／中東／アフリカおよび中国からのあらゆる輸送手段に属する部分の排出量は、輸送業者により算定され、情報提供された。	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」		
カテゴリ6「出張」	● 従業員各自の移動距離	● GHGプロトコルに基づいた各種の移動手段別の排出係数
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 実際の電気使用量データ	● 個別の国／地域における電力の排出係数